

『よくわかる 2級 QC 検定 合格テキスト』 品質管理検定レベル表の改定に伴う追録

いつも弊社出版物をご利用いただき、誠に有難うございます。

品質管理検定レベル表の改定（第20回検定試験より適用）に伴い、追録を作成致しました。

P.82 下から4行目「～種別があります。」の次に挿入

データの数が増えれば、それによって求められる確率が、理論的な確率に近づくことを大数^{たいすう}の法則といいます。

P.97 7～8行目の「この関係は～下さい。」を差し替え

この性質は中心極限定理として極めて重要な性質です。この定理を言い換えますと、次のようになります。

$\frac{\bar{x}-\mu}{\sigma/\sqrt{n}}$ という量は、 n が大きくなる時、平均値 μ 、分散 σ^2/n の正規分布に近づく（ここで、 \bar{x} はデータの平均、 μ や σ は母集団のものであることにご注意下さい）。

P.108 図の下に挿入

10 分割表による検定

例えば、右のようなデータ表を 2×2 分割表といいます。分類データ（男性・女性、成人・子供など）が対象となります。このデータをもとに、行や列での値が互いに独立かどうかを検定します。

	B1	B2	合計
A1	a	b	$a+b$
A2	c	d	$c+d$
合計	$a+c$	$b+d$	N

検定では、次のような χ^2 値を用いた χ^2 検定が行われます。

$$\chi^2 = \frac{(ad-bc)^2 N}{(a+c)(b+d)(a+b)(c+d)}$$

P.114 「1 回帰分析法」の最下行の次に挿入

回帰式やそのモデルの妥当性を検討することを回帰診断といいます。次項に出てくる残差などが主に検討対象となります。